

技、其の一 水管理の徹底を

これからの水管理の良し悪しが根の活力維持を左右します。
登熟歩合、品質、食味を高めるため、水管理を徹底しましょう。

1. 中干し終了後の乾きすぎ（白乾亀裂）は、根の活力が大きく低下します。
2 湛2落（間断灌水）の水管理で、土壤水分が不足しないよう注意しましょう。
2. 穂ばらみ期以降（出穂前15～11日）に20℃以下の低温が続くと障害不稔が発生する危険があります。低温時には深水管理を行い、稲体・幼穂を保護しましょう。
3. 出穂から穂揃い期までは、開花・受精に十分な水分（花水）が必要になります。開花期は湛水状態とし、穂揃い期以降は2 湛2 落の間断灌水へ移行しましょう。また、高温・強風時（フェーン現象）には、稲体の消耗が大きくなるので一時的に湛水し、稲体を保護しましょう。

技、其の二 上位葉に葉いもちが確認されたら、追加防除を！

一部地区では葉いもちが確認されています。特に、葉色の濃い圃場や過繁茂の部分を観察し、早期発見に努めることが重要です。

また、管内一部地域においてアワヨトウの幼虫による食害が確認されています。アワヨトウが発生すると一気に被害が拡大する為、直ちに防除する必要があります。注意深く圃場を観察して、発生が確認された場合は、最寄営農課へご相談ください。（次の世代の発生は8月中旬頃です。）

● 稲こうじ病の防除時期です。例年発生が確認される圃場では、下記薬剤で対応しましょう。

薬剤名	10 a 当り使用量	使用時期（出穂期8月5日の場合）
モンガリット1 ^キ 粒剤	1 k g	出穂前14日（7月22日頃）
ブラシン粉剤DL	4 k g	出穂前10日（7月26日頃）
Zボルドー粉剤DL	4 k g	出穂前14～10日（7月22～26日頃）

※Zボルドー粉剤DLは、葉が濡れている時及び出穂期近くに散布すると薬害の恐れがありますので、必ず出穂10日前まで葉が乾いているときに散布してください。

◎ 平成29年度 粉剤防除計画

一斉防除時期	防除薬剤名	散布量/10a	対象病虫害名
7月下旬 （穂ばらみ後期）	ラブバリダスミ粉剤3DL	3～4kg	いもち病、紋枯病 カメムシ類、ニカメイチュウ
8月上・中旬 （穂揃期）	ダブルカットK粉剤DL	3～4kg	いもち病 カメムシ類
8月中・下旬 （乳熟期）	キラップ粉剤DL	4kg	ウンカ類、カメムシ類 イナゴ類

※粉剤（粒剤）防除の場合

1. 各地区の防除計画を順守し、特に一斉防除期間内での実施をお願い致します。
2. 農薬の使用時には、農薬の使用基準を順守するとともに、隣接地や周辺作物へ飛散しないように十分留意してください。
3. 特別栽培米は計画された薬剤以外は使用できませんので、必ず各営農課へご確認ください。（裏面に続く）



きらきら Eye Land
JA 庄内みどり

安全・安心をお届けいたします

グリーンプロジェクト情報 第9号

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課

**出穂まであと少し！注意深く圃場を回り
水管理と草刈りの徹底を！**

7月10日現在の生育状況は、草丈は平年並み～やや短く、茎数は平年並み～やや多く、葉色は濃く、圃場によりばらつきはあるものの葉齢は2～3日程度の遅れです。

仙台管区气象台の1か月予報（7月6日発表）によると、曇りや雨の日が多く、気温は高い予報です。今後は過剰な追肥は控え、間断灌水の徹底によって根の活力維持に努めましょう。

また、8月上旬以降は、斑点米カメムシ類が水田に侵入し加害する時期です。斑点米カメムシ類は、畦畔・農道・休耕田等の雑草が多いところで増殖するので、こまめな草刈りによって生息密度を低減するよう、地域を挙げて取組みましょう。

◎現在の生育状況（7月10日現在の作柄診断圃データ）（ ）内は平年対比
つくばSD2号については、JA 作況圃データ（ ）内は指標対比

品 種	草 丈	茎 数	葉 齢	葉色 (SPAD 値)
は え ぬ き	57.8 cm (104)	676 本/m ² (109)	10.2 (-0.1)	42.8 (+3.7)
ひ と め ぼ れ	53.8 cm (91)	509 本/m ² (98)	9.8 (-0.5)	38.7 (+1.6)
つ や 姫	51.7 cm (90)	540 本/m ² (105)	9.7 (-0.5)	40.4 (+0.8)
つくばSD2号	52.3 cm (96)	715 本/m ² (115)	10.2 (-0.4)	41.9 (+0.1)

出穂期予測（平坦部）...各地区の現地巡回調査による

どまんなか	ひとめぼれ	はえぬき	つや姫(コヒカリ)	つくばSD2号
8/3～5	8/5～8	8/5～8	8/13～	8/14～



○食味最優先の穂肥対応を！

- 7月10日の調査では、8月13日頃から出穂期を迎える予想です。穂肥は適期に遅れずに施用しましょう。
- 品質・食味を優先し、葉色が濃い圃場では、穂肥は行えません！

一斉草刈デー(7/22(土)～23(日))で雑草対策を！

園芸情報

◆主にV溝直播圃場などの葉色が濃いところではイネツトムシの発生が懸念されますので圃場の見回りをお願いします。尚、薬剤については各地区営農指導員にご相談ください。

技、其の三 カメムシ対策…こまめな草刈りが肝心

今年も斑点米カメムシの発生が多く、多くの地点で確認されています。8月上旬になると畦畔・農道・休耕田等から水田への飛来侵入が多くなります。

カメムシ対策は、適切な薬剤防除と、圃場周辺の「こまめな草刈り」と「圃場内の雑草（ヒエ、ホタルイ等）の除去」が重要です。草刈りは、8月上旬の無人ヘリ防除直前までに刈り終えるようにしてください。

その後、8月中の草刈りは行わないようにしましょう。



技、其の四 こんな稲は倒伏軽減の対策を

ひとめぼれ 出穂12日前の生育（7月25日頃）

危険度	草丈 (cm)	葉色	対策
中	73~75 cm	4.8 以上	倒伏軽減剤 2kg/10a 施用
大	76 cm 以上	4.8 以上	倒伏軽減剤 3kg/10a 施用

【倒伏軽減剤の使用について】

出穂の20~10日前に倒伏軽減剤を使用する場合は、スマレクト粒剤またはロミカ粒剤を使用しましょう。特別栽培米・飼料用米には、使用できませんのでご注意ください。

今後の大豆管理について

1. 生育確保対策

まもなく開花期をむかえます。その前に株元までキチンと仕上培土を行いましょう。なお、大雨により圃場内に停滞水が発生した場合には、すみやかに排水を行なうとともに、排水路の点検・手直しを行ない今後の降雨に備えましょう。

また葉色が淡い圃場では、培土前に必ず尿素 10kg（現物量）/10a 等の追肥を実施しましょう。

2. 雑草対策

一部圃場で、大型の雑草が散見されるようになりました。放置すると害虫の発生も多くなり、コンバイン収穫にも支障をきたします。

良質大豆を生産するために、早めに除去しましょう。

3. ジャガイモヒゲナガアブラムシ対策

アブラムシは、気温が高くなると発生が多くなります。注意深く圃場を見回って、早期発見に努めましょう。

ケイトウの栽培管理

～密植して、少肥で茎を細く、硬く仕上げるのがポイント～

ほ場準備	適正 pH5.5~6.5 施肥量 (kg/10a) 窒素5~10:リン酸5~10:カリ15~30 肥料分のあるほ場はこの半分を基肥とし、様子を見て追肥で対応する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 一施肥例(砂丘地) — ケイ酸カリ 80kg/10a 有機&エイト 120kg/10a 苦土石灰 60kg (pH5.5~6.5になるよう調整) </div>
栽植様式	株間10~12cm、条間10~12cm、6条
は種育苗定植	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発芽適温: 25°C</div> <div style="display: inline-block; vertical-align: top; margin-left: 10px;"> { 盆出し...5月下旬~6月上旬は種(直まき) 彼岸出し...6月下旬~7月上旬は種(直まき) </div> <p>直まき栽培: コート種子を利用 移植栽培: 200穴のセルトレイには種し、本葉3~4枚(は種後1ヶ月程度)で定植。 1箇所(1穴)2粒は種し、発芽揃い後(直まきでは発芽約1ヵ月後)に間引いて1本にする。</p>
灌水	は種~発芽そろい: 乾かないようにこまめに灌水。生育が過剰に旺盛にならないよう徐々に灌水量を減らし、乾燥気味の管理とする。
追肥	葉色を見て、必要に応じて追肥する。 元肥を少なくして細く作ると、穂が小さくなるので、穂が大きくなる頃にカリ高の肥料を追肥する(ボブピータース、ポリコープ3号など)。
ネット張り	草丈20~30cmになったらフラワーネットを張る。
病害虫防除	立枯病、疫病→被害株の抜き取り、土壌消毒 ハダニ類、アザミウマ類、ヨトウムシ類、アブラムシ類、センチュウ類

農薬の適正使用と空容器の処理について

- ・ 農薬を使用する場合は、使用前に農薬ラベルを確認しましょう!
- ・ 周辺への薬剤の飛散に十分注意しましょう!
- ・ 防除器具(ノズル・ホース・ポンプ・タンク)等の洗浄は必ず行いましょう。(器具の洗浄不足により残留農薬の分析で異常検出や超過検出されている事例もあります。)
- ・ 農薬の保管は、保管庫に必ず鍵を掛けて保管しましょう。又、使用済みの農薬の空容器等は、各支店・各資材店舗で年2回実施している農業用廃プラ回収日に処分しましょう。

★次号の発行は8月10日です!